

# わか草



第十七回 平成二十三年一月一日  
発行 東京都立東部療育センター  
広報委員会  
東京都江東区新砂三三二二十五



平成22年12月1日 5周年記念式典



明けましておめでとうございます。

去る十二月一日に挙行了した開設五周年記念祝典と歳末の行事を滞りなく終え、新春を迎えました。新しい年にあたり、センターがこれまで成長してきたことを皆様とともに喜びたいと思います。年末年始、変わらず勤務された職員の皆さんありがとうございました。

病棟では、利用者の皆様は体調変化もなく楽しくお正月を過ごされたことと思います。年末から入院したお子さんの治療や看護に追われた状況もありましたが、小児状態で年を越すことができました。

さて、昨年の正月は新型インフルエンザの流行で、学級閉鎖なども続き緊張しましたが、平穏な年末年始を迎え、久しぶりにテレビ、新聞報道と対面しました。高齢者の生死不明を契機とした無縁社会の問題、児童虐待、経済不況や就職困難、政策の不透明など暗い話の多いなかで、i p s細胞の山中教授が高校生に語った「整形外科医で出発したが不器用と笑われ、米国でも様々な挫折があったが、あきらめずに努力して成功した」との話や、曾野綾子さんの「人間は受けるだけでなく、他者に与えてこそ満たされ幸福と実感でき

る」などの言葉が印象に残りました。こういった言葉を糧としつつ皆さんとともによりよいセンターの運営に努力しようとの心を新たに致しました。

センター四階のベランダから東を見ると、ゆっくり着実に伸びるスカイツリーが見えます。既に現在の電波発信拠点で日本最高の東京タワーを超え、自立式のタワーとしては六百三十四mの世界記録に向けて成長を続けています。十二月に完成すれば低層階には約三百の店舗が入居する他、西側五、六階に水族館、東側七階にはドーム型のシアターやプラネタリウムが設置されると報じています。伸び盛りのスカイツリーを見ていると大きな力を感じます。センターもこのタワーのように今後さらに重症児療育の先駆とし、成長するよう皆さんとともに力をあわせ利用者様はもとより都民の皆様への期待に応えていきたいと思います。

利用者の皆様、ご家族の皆様、また各職員の皆さんにとって、明るい一年であるようお願いいたします。



四階から見える  
スカイツリー

平成二十二年十月六日、東部療育センターあびての行事、オータムフェスティバル。昨年度は新型インフルエンザの影響でお楽しみ会として各部署ごとに行いましたが、今年も例年通りに開催することができました。今年もアトラクションでは、利用者様が参加できる企画としてファッションショー、「TOBUオータムコレクション」、職員有志によるバンド演奏、

かもめ分教室の先生がたのダンス、ゲームコーナーは「運動会」をテーマに、ゆるキャラとの綱引きと、センター全体を使ったスタンプラリー、喫茶コーナーは「ワールドカップ」をテーマに世界のデザートをご用意して一階食堂と三階での提供を行いました。また、利用者様、ご家族様、職員による作品展もすばらしい作品が集まり各階に展示されました。

今年も来てくださり、各部署で利用者様に綺麗なお化粧をしてくださいました。初めての企画である利用者さま参加のファッションショーは、お

## オータムフェスティバル



ファッションショー開催



しゃれを楽しみ煌びやかな照明のなか、一人ひとりの利用者様が主役になれたファッションショーでした。二年ぶりの開催となった第五回オータムフェスティバルを、参加者全員で大いに楽しみ無事に終わることができました。

# クリスマス会 特集

## 一階西病棟

十二月十六日、看護長の合図とともに「クリスマス会」が開催されました。今年のイベントは、入所者様全員での「宝探しゲーム」です。宝探しゲームは五人一組でサンタさんからのプレゼントをもらうために必要な「プレゼント引換券」を探し当てることです。なかなか見つけれないグループもありましたが、みな無事に見つけだすことが出来ました。

そして次はメインのダンスパーティーです。出演者は男性、女性の看護師と児童指導員の六名。男性職員も女性職員もきれいに化粧をしたり金髪やカラーの髪でアイドルグループ、パフォーマムと嵐の曲でダンスです。利用者様もご家族も皆で盛り上げてくれました。次は、サンタさんからのプレゼントです。一人ひとり嬉しさいっぱいの表情で「ありがとう」をしました。会の最後を飾ってくれたのは、ミニスカートサンタさんの井手先生です。

最後まで笑いの溢れるにぎやかなクリスマス会でした。



二階西ダンスパーティー

## 二階南病棟

十二月十五日（水）クリスマス会が有馬院長先生の挨拶と共にスタートしました。クリスマス会に向けて病棟内の装飾やプレゼント作り、歌の練習を利用者様と職員が一丸となって行い、この日を心待ちしていました。

秋元看護長率いるダンスチーム。素敵なクリスマス会の衣装を身にまとい、息を切らせて踊りました。利用者様を初め、保護者の方にも大好評。アンコールまでいただき熱気で溢れるデイルームでした。ブラックライトシアターでは幻想的な光とクリスマスソングを楽しめました。「きよしこの夜」を聞きながらのキャンドルサーピス、そしてサンタさんの登場☆今年も沢山のプレ

セントを運んできてくれました。

最後にケーキの登場。デイルームの盛り上がりは最高潮に達しました。レストランで食べるような盛り付けに味。大満足な様子でした。とても楽しい時間はあっという間に感じられました。



三階南ダンスチーム♪

## 二階西病棟

十二月十六日、「クリスマス会」が開催されました。十二月は寒い日が続きましたが、体調を崩すことなく全員が参加することが出来ました。

今年の出し物はサンタクロースやトナカイをモチーフにした、素敵な衣装と踊りの見られたダンス劇。帽子の中から旗、ハト、馬が出てきたり、箱の中から車、人形、人間が出てきたりという大掛かりな手品もありました。今年には職員の出し物がなくなりましたが、利用者主体のクリスマス会で盛り上がり

りをみせてくれました。

スライドショーでは利用者様、ご家族、職員と一緒に今年一年を振り返り、みんなで楽しむことができました。前日まで準備に追われ不安もありましたが、職員全員の協力で当日は参加していた利用者様や、そのご家族様の笑顔も見ることができ、楽しい時間を共有することが出来ました。また来年もよい会ができるよう、企画・検討していきたいと思えます。



三階西ダンス劇

## 二階南病棟

今年度のクリスマス会は、利用者様が主体となるクリスマス会を演出しました。一人ひとりが役割を担い、主役となるよう努めました。

会は大きく二演目に分け、その一つがトーンチャイム演奏です。普段、療育活動に参加できないご家族と演奏す

ることで、楽しい空間を共有できるところを期待しました。ゆっくりではありましたが、一音一音一生懸命演奏している姿が伝わったのか、客席からは大きな拍手をいただきました。

二演目は、演劇です。これは、クリスマス絵本を基にスタッフが東部療育センターバージョンにアレンジしたものです。テープに台詞を録音し、流しながら劇を展開させ、見せ場はどこかを委員で話し合い最終的に利用者様七名の参加となりました。音響が聞こえにくかったり、利用者様の台詞が飛んでしまったりと、ハプニングはありましたが演者全員が楽しく参加することが出来ました。

今年新しい企画に挑戦し、課題も残る会でした。しかし、利用者様主体という点については、課題点を改善しつつ来年度にもつなげられるように努めていきます。



二階南病棟風景

## 通所

十二月十六日(木)「通所クリスマス会」がありました。利用者様三十名の参加で会が始まりました。はじめに岩崎副院長と保護者会会長からの挨拶、そして「点灯式」。一人ひとりキャンドルを手に持ち、照明が落とされ、会場にいる全員「メリークリスマス！」の掛け声と共にイルミネーションが点灯され、幻想の空間が広がりました。次は利用者様による劇「ケーキこわい」。十名の利用者様がステージに出て一人ひとりにスポットライトが台詞のたびに照らされました。職員のギターに合わせ全員で何度も練習した挿入歌。自分の番では大きなスクリーンに写し出される姿は、日々の練習成果が感じられ、手作り感のある楽しい発表となりました。劇の締めくくりは乳幼児のみなさんが登場し、可愛らしい素敵なブーケを手渡ししてくれました。

次は保護者有志による劇「かさじぞう」。ナレーションで始まりすっきり役に成りきったお母様方、台詞も完璧！（いやアドリブという噂も）なんとお父様まで参加してくださる劇が盛り上がりました。午前のフィナーレは職員による合唱でした。「もろびとこぞりて」「エール」。アンコールに「手の

ひらを太陽に」を披露させてもらいました。時間がやや押ししてしまいご迷惑をおかけしましたが皆様のご協力あって無事に楽しく、心温まる素敵な時間を過ごせました。ありがとうございました。



通所合唱団♪

## 乳幼児通所

今年のクリスマス会は、三月で卒園する三人のお友達にとって最後の行事でした。毎年「見る側」だった子どもたちですが、「みんなと一緒に」ほれほれ全員が主役になり一つの作品を作れたら…そんな思いで子ども達の出し物は「みんなで作ったクリスマスマツリー」という劇ごっこに決定。卒園児は主役を務め、在園児はそれぞれ森の動物たちに。一人一人振りや決めポーズもあり、最後には全員で車椅子ダンス。保

護者の方も全員参加し、とても盛り上がりました。劇が終わると成人通所のお兄さんお姉さんから松ぼっくりのプレゼントをもらいました。そして、職員の手ンドベルでゆったりと過ごし、最大のメインイベント“サンタクロースとトナカイ”の登場で再び盛り上がりました。今年一年がんばったご褒美に一人一人プレゼントをもらって、記念に写真をパチリ。お楽しみ後は、栄養科さんが作ってくれた素敵なクリスマスケーキに子供達も保護者の方も舌鼓。美味しいクリームをぺろりと味わい幸せそうな笑顔が溢れていたケーキタイムでした。保護者の方々、関係スタッフの方々のご協力のもとに、楽しいクリスマス会を無事に行うことが出来ました。ありがとうございました。



集合写真でパチリ

## 五周年記念講演報告 中村弘 事務長

十二月一日センターは開設五周年を迎えました。この日は東陽町のホテルの会場を借りて、記念行事として有馬院長の「私たちが成し遂げたこと これからの課題」超重症児療育の挑戦」と題する講演を行いました。参加者はお客様をふくめ八十名ほどでした。

講演に先立って、開設者である東京都を代表して東京都福祉保健局障害者施策推進部長芦田真吾様（代理同部課長柴田様）、来賓として江東区の山崎区長から挨拶を頂きました。

山崎区長からはセンターが都の東部地域に初めてできた重症心身障害児（者）施設であり、地域の方々の強い願いによってできたこと、財政難にもかかわらず石原知事の英断によって建設が決まったことなど秘話を含めて挨拶がありました。

院長の記念講演では、東京都庁の開設準備室や平成十七年十月に現在の地での準備業務に入った時の様子についての思い出を交えながらセンターの設置の経緯や島田療育園（現在の島田療育センター）秋津療育園、びわこ学園の草創期の施設の状況に触れながらこれらの施設のつくられた社会背景と果

たしてきた役割などについてセンターの位置を正しく理解するうえで貴重な話がありました。

センターの療育については、いくつかの資料をもとに入所者様の療育に成果をあげたこと、一方で開設時に入所申し込みのあった在宅の障害の重い方々の転帰など、資料に基づいてセンターがこれまで為し遂げたことについて分かりやすく話がありました。センターは特に障害の重い超（準超）重症児（者）の療育と在宅療育の地域支援を大きな役割としています。そのことを踏まえての話でした。

最後に有馬院長は、重症心身障害児（者）を大切にしていくとするのは日本の伝統であるされ、外国での重症児に対する医療の考え方など院長の若いころの学会でのことなどを交えながらの興味尽きない話がありました。記念講演は予定の時間を超え、院長の熱意が大いに伝わる一時間でした。

私たちがこの五年間で為し遂げた事が重症児療育の新しい一ページであることを確認した講演でした。



山崎 江東区長

## 五周年を迎えて



事務室 野崎 雅伍

平成十年五月に設置された都立重症心身障害児施設検討委員会において都立重症心身障害児施設の基本的在り方や区東部に設置する新施設の具体的機能について平成十二年三月に最終報告が出されました。この時期は、バブル崩壊後の大変不景気な時代で、東京都では新たな建物の建設は、一切ストップの状態でした。しかしながら、障害の重症化や医療ケアの必要な方の増加などから親御さん達の強い要望とそれを受けた超党派の議会の支援と石原知事の英断により、平成十三年度基本設計、十四年度実施設計、そして十五年十月工事着工が計画化されました。

私は、平成九年四月から十四年三月までの四年間福祉保健局で当センターの立ち上げ業務に直接タッチしていました。そのご縁から平成十七年四月から庶務係長として、センターの開設に向けて準備に携わりました。

平成四年八月一日に東大和療育センターが開設して以来十三年余、医療ケアが必要な超（準超）重症児が増え続ける中、重症心身障害児施設では医療設備もスタッフも少なく、短期入所もなかなか受け入れることが難しい状況が続き、地域には入所待ちや短期入所の受け入れが切実な状況になっていました。そのような中で、超（準超）重症児を半数以上受け入れる目標の下に、有馬院長を始め職員が一丸となって取り組みを始めました。

今回の記念講演でも院長が触れられたように入所選考中に十人の児童が亡くなられるなど、在宅での介護は非常に大変と思いました。病棟でも人工呼吸器二十台を越えて受け入れている状況はとても大変でしたが、スタッフの努力やご家族のご協力を頂き、順調に療育の幅が広がってきています。

この五年間は安全に特に力を入れてきました。昨年からは、バスハイクなどの外出の機会の確保など療育の充実が図られてきています。また、「花火を楽しむ夕べ」も楽しい年中行事になっていきます。

短期入所も看護スタッフを増やしなからより多く受け入れられるよう努力しています。やっと療育の質の向上に目を向けるようになってきていると感じています。

児童福祉法の改正に向けての動きはまだまだ良く見えませんが、施設入所者も、在宅の方々も、通所利用者も皆さんが手を取り合って共生していけるよう基盤づくりにセンターが寄与していけるよう皆さんと共に努力していきたいと思えます。



三階西病棟 高橋 良枝

あつという間に五年が経ちました。

手放しに喜んでばかりもいられない現実もあります。この日を迎えることができた安堵感と、「また五年かぁ…」と言う思いと、様々な思いが混在しています。ここに辿り着くまで、山あり谷あり、こんなに大変だと誰が思ったでしょうか？…とは言っても開設準備時の日々を懐かしくも感じます。臨床での経験しかない私にとっては、都庁勤務はちょっとぴりOL気分も味わえた場所でもあり、また全く面識のない方々と机を並べた緊張の場でもありました。

十二月に初めて利用者の方々を迎えた日、「何事もなく朝を迎えられますように」と、毎晩祈るような思いで夜を過ごしたこと、今となってはそのころの話を語り合える看護長仲間も誰一人いなくなってしまうことは寂しい限りです。しかし、日々時間は過ぎていきます。目の前の課題は山積みですが、利用者の穏やかな日々を追求し、私たちが出来る最大限のことを利用者の皆さまに提供して行きたいと思えます。この先、東部にとって少しでも良い歴史が刻めるように、そして「東部らしさ」が生み出せるよう微力ながら一緒に頑張っていければと思います。



リハビリ科 甲斐 結城

五年前に都庁の一隅に設けられた、東部療育センター開設準備室。その一角で、新しくできる重症心身障害児（者）の施設のために集まった各専門職種の代表者たちの中に混ざったの仕事は、なれないスーツ姿での出勤もあって、かなりの緊張を伴って始まった記憶があります。リハビリテーション部門の部屋の設計確認や物品のリス

トアップなど、自分はもとより、自分と一緒に働いてくれるスタッフが、自由に自分らしいセラピーが出来るようにと、遅くまで残って設計図面を見ながら改善点を見つけたら、インターネットやカタログとにらめっこをして物品のリストを練り上げたりして、都庁の職員さんにたくさんのお願いをしたことも良く覚えています。後から合流したスタッフと療育システムのための帳票をつくりながら、部門の運営を一緒に考えることが出来たのもチームワークのために良い経験になったと思います。おかげで、色々な仕組みや活動が、少しずつ充実して、センターの色々な部署と連携がとれるようになってきたと思います。そして何よりも、苦勞して準備した部門としてのハードやソフトを活かして素晴らしいリハビリテーション科を発展させ続けているスタッフたちに感謝しています。

**後見人向け試食会を実施して  
栄養科 村松かおる**

栄養科は巷のブーム等も取り入れて栄養・安全に裏打ちされた楽しく食べる食事作りを心掛けています。そこで自らの業務を客観視すべく十・十一月の保護者会で入所・通所利用者後見人の方を対象にセンター給食の試食会を

行いました。試食料理は写真の通りで、特別食でなく当日の給食とし、「料理の味・食物の硬さや食感」について伺いました。結果、「味は薄めだが良い・つぶしは滑らかに仕上がっていた・これら子供達のおふくろの味になって行くのだなと感じた」の感想と、「レシピが欲しい・今後も試食会をして欲しい・つぶし食の見た目や味を普通食に近づけて欲しい・子供の食物形態を変えて欲しい」という要望を頂戴しました。後見人を通して利用者様の本音を伺い、私達栄養科は「総ての方においしいと感じてもらえる食事作り」という永遠のテーマに対して真摯に向き合いました。具体的な課題の見えた意義のある試食会でした。



ご試食頂く料理 各1/3人分  
ご飯  
鶏肉からし焼き・もやしチヂミ  
マカロニサラダ  
オオスズメ

**東部あれこれ**

今年の十月から十二月にかけて当院で行われた行事等について紹介します。

【十月】

利用者様やご家族が毎年楽しみにしているオータムフェスティバルが六日（水）に開催されました。昨年は新型インフルエンザの影響で規模を縮小し、名称も「お楽しみ会」になり、病棟ごとの実施のためあまり華やかさがありませんでしたが、今年は家族の方々の参加も多く、職員も大いにやりがいを感じていました。



【十一月】

少しずつ寒さが忍び寄り、今年もインフルエンザワクチンの予防接種時期になりました。昨年のワクチン不足とは違い、早々とワクチンの入手も終り、十一月末で入所者様九十一名が接種を終りました。

【十二月】

今月は一日の開設五周年記念行事に始まり、バスハイク、クリスマス会、お楽しみ会など、行事が目白押しでした。利用者様も職員も大いに楽しみ、明日の英気を十分に養えたのではないのでしょうか。

**編集後記**

指定管理期間十年の折り返し点となる今年最大のイベント「開設五周年記念行事」が十二月一日に行われ、有馬院長がこれまでセンターが積み上げてきた実績や今後の課題等について講演されました。地域からのセンターに対する期待も大きく、職員一同益々気を引き締めて業務に邁進したいものです。